

令和6年度 東久留米市立 第二小学校

学校評価報告書

学校教育目標	◎ 考える子 ○ 仲よくする子 ○ じょうぶな子	【目指す学校像】	・児童が「分かる喜び・できる喜び」を味わえる学校 ・保護者が安心できる学校 ・地域とともに歩む学校 ・教職員がやりがいをもつ学校
		【目指す児童・生徒像】	・自ら考え、判断し、解決する子 ・自他を尊重する子 規範意識をもつ子 ・体を鍛える子 最後までやり抜く子
		【目指す教師像】	・笑顔あふれる教師 ・児童の状況をしっかりと見取る教師 ・児童の見取りを踏まえ、授業や指導を確実にを行う教師 ・服務規律を重んじる教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	(成果)タブレット端末を積極的に取り入れた授業を実施することができた。 (課題)学年によって、学力の定着の差が大きいことから、全体的な学力の底上げが必要である。そのための授業改善が必須。		

東久留米市第3次教育振興基本計画				中期経営目標	短期経営目標	評価指標・評価基準		自己評価		学校関係者評価		次年度の方策
No.	三つの柱	基本施策	今年度学校で重点を置く「具体的施策」	(令和8年度までの3年間)	(1年間)	取組指標	成果指標	取組	成果	評価	コメント	
1	I 人権尊重の精神の涵養と健やかな心と体の育成	個性を認め合う教育の涵養	人権尊重教育の推進	教員の人権感覚を磨き、児童の自己肯定感・自己有用感を育むための全教育活動の実施	教員に対する人権研修を実施し、全教育活動を通して、児童に対して人権教育を実施する。	①各学期の初めに、教員へ人権研修を実施する。 ②人権週間での作品を全校に広げる。 ③縦割り交流活動を実施する。	(児童アンケート)自分にはよいところがあると思う児童 A:85%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	A	B	B	縦割り交流活動を通して、「自分が6年生になったら…」と思いもつ下学年の児童がいた。このような機会を今後も大切にしていきたい。地域貢献の授業は、児童が人前で話す機会が豊富で、自己肯定感が生まれやすい。高学年になると、声が小さかったり、自己表現に自信をもてなかったりする児童の割合が高くなる。ほめられる経験だけではなく、人前で発表する経験を増やしていきたい。いじめ防止に関しては、先生方が児童の細かいところまで見取っているのがよく分かる。	・教職員を対象とした人権研修をこれまでと同様に年度当初や学期当初だけではなく、必要に応じて実施し、全教職員の人権意識・人権感覚を磨いていく。 ・縦割り班活動を次年度も継続し、6年生が最高学年という意識をもちながら、下学年生に接し、下学年生に憧れる存在になるよう助言しながら見守っていく。
2	I 人権尊重の精神の涵養と健やかな心と体の育成	個性を認め合う教育の涵養	いじめ問題への対応	いじめの未然防止・早期解決のための道徳授業等の実施	いじめ防止に関する道徳授業を定期的に実施するほか、アンケート調査やSC面接等を通して、いじめの早期発見・早期解決を図る。	①いじめに関する授業を学期に1回実施する。 ②児童の日常の様子を把握し、常にアンテナを高くし見取る。 ③年3回の児童アンケートを実施し、早期対応する。	発見したいいじめの解消率 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	A	A	A	・教員が日常の児童の様子を確実に把握し、いつもと異なる表情や言動が少しでも見られる場合には、何かしらを疑い、実態を把握していくように次年度以降も努めていく。 ・未然防止が原則であるが、早期発見をした際には、組織的に対応し、早期解決に努める。	
3	I 人権尊重の精神の涵養と健やかな心と体の育成	個性を認め合う教育の涵養	特別支援教育の充実	個別に特別な支援の必要な児童への適切な就学支援の実施	校内委員会の定期的な実施、都の派遣心理士等の活用により、課題のある児童に対する手立てや方向性を明らかにし、全教員で共有する。	①月1回の校内委員会を実施し、担任・SC・巡回教員・専門員・コーディネーターとの連携を図る。 ②年6回、都派遣心理士に児童の行動観察をしていただき、助言を受ける。	(保護者アンケート)児童の特性に応じた言葉かけ等、個に応じた特別支援教育を実施している。 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	A	A	A	・各学級において児童の様子を担当だけではなく、管理職や都派遣心理士、特別支援教室の教員や専門員など大勢の目で把握し、校内委員会等で共有してきた。それを踏まえ、今後の具体的な支援や指導方法を確立し、全教職員でその情報を共有し、全員で指導している。今後も、このシステムを維持し、児童にとってより適切な教育を提供していく。 ・また、何よりも大切なことは、学校と保護者が児童の成長に関して同じベクトルの向きであることである。今後も学校と保護者とのコミュニケーションを密にしていこう。	
4	I 人権尊重の精神の涵養と健やかな心と体の育成	規範意識や他人を思いやる心を育む教育の推進	道徳教育の充実	児童の思いやりや優しさなど人間性豊かな心を育むための道徳教育の実施	課題を自分事として捉えさせる道徳教育を実施する。	①特別の教科道徳の授業を週に1回実施する。 ②学期に1回以上、思いやりに関する道徳授業を実施する。	(児童アンケート)友達に思いやりをもち、仲良く過ごせた。 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	A	A	A	挨拶をする児童が多い学校である。保護者も温かい心をもっている。右側歩行などもしっかりとでき、児童の規範意識が育っている。	・特別の教科道徳の授業の重点を思いやりに特化し、一人一人の素晴らしさを互いに理解させることにより、全教育活動において、児童が自他を尊重する精神を養うことにつながる。 ・代表委員会が中心となり、挨拶や右側歩行等の「当たり前」のことに「当たり前」であることを全児童に啓発してきた。次年度も実施する。
5	I 人権尊重の精神の涵養と健やかな心と体の育成	生涯にわたって育む健やかな体づくり	体育・健康に関する教育の充実	児童の心身の健康の保持増進への意識の向上と体力の向上	自己の心身について理解し、健康に関心をもつとともに、すすんで外遊びや体力づくりに励む児童を育成する。	①好天時の休み時間には、原則、校庭遊びを励行する。 ②体育朝会や体カアップ週間を設ける。 ③6年生:薬物乱用防止教室 5年生:認知症学習等を実施する。	(保護者アンケート)学校は、児童の体力向上のための取組を実施している。 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	A	B	B	児童が外遊びをしたいと思わせる働きかけが必要である。また、外遊びの重要性を保護者にも随時伝えることも大切である。中学以降は外遊びということをしなくなる。	・体育朝会では、次年度以降も長縄大会や持久走習慣を設け、児童が運動に主体的に取り組んだり、親しみをもつたりすることができるようにする。 ・健康の保持増進に向けた取組や声かけは今後も継続して行い、児童の体力向上等に努める。また、児童や保護者に外遊びの意義を説明し、理解していただけるように努める。
6	II 人生を切り拓き、社会を創る確かな学力の育成	確かな学力の育成	個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実	児童が「分かる・できる」を実感するための教員の授業力の向上	「東久留米スタンダード」を活用した授業を展開し、全学年国語・算数において単元末テストの平均正答率を80%以上にする。	①「東久留米スタンダード」に沿った授業を展開する。 ②授業観察後に指導・講評し、全教員の授業改善を図る。 ③テストの結果を分析し、授業改善を図る。	(単元末テスト)算数・国語の平均正答率 A:80%以上 B:75%以上 C:70%以上 D:70%未満	A	A	A	今後も、OJTをしながら、教員同士が切磋琢磨しながら授業力を高め続けることが重要である。めあてが明確な授業や教師による「しかけ」のある授業は、子供たちの学力の向上につながっていく。	・今年度から実施しているトリオによるOJTを次年度も継続して実施し、全教員の授業力のさらなる向上に努める。 ・「東久留米スタンダード」に沿った授業を今後も展開し、児童の学力の向上に努めるため、目標数値を上げる。
7	II 人生を切り拓き、社会を創る確かな学力の育成	国際社会の担い手を育む教育の推進	地域と連携した教育の推進	地域環境を生かした体験活動や、外部人材を活用した授業の実施	ゲストティーチャー(田無警察署・落合川クラブ・東部包括支援センター・水道局、等)を招聘した授業を実施する。	1・2年:交通安全教室 3年:落合川環境教育 等 4年:高齢者教育 等 5年:認知症教育 等 6年:がん教育 等 などゲストティーチャーを招聘した授業を行う。	(保護者アンケート)学校は、地域や外部人材を生かした学習を実施している。 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	A	A	A	地域連携から「地域貢献」へと学習が発展しているのが分かる。児童が地域に主体的に関わる態度を育成している取組はいいことである。	・地域連携をこれまでと同様に行い、児童の学習内容をより深いものにする。 ・「地域貢献」を目指した「探究的な学習」を3年生以上で実施し、本校としての授業のあり方を研究発表会を通して、全市に広げる。
8	III 時代の要請にこたえる信頼される学校づくり	持続可能な指導体制の整備	組織体としての学校機能の強化	教職員一人一人が勤務時間を管理し、ライフ・ワークバランスを意識した働き方改革の推進	一人あたりの週の勤務時間を53間以内におさめる。	①会議・業務内容をより精選する。 ②各教職員の出勤時刻に合わせた理想的な出勤時刻を設定する。	(月ごとの出勤調査)週53時間以内の勤務時間である教職員の割合 A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	B	B	B	ベテラン教員がしっかりと授業研究・授業準備を行い、それを若手教員に伝授するという文化継承は今も昔も変わらないし、今後も大切なことである。昨年度よりは、数値が上がっていることは評価できる。	・研究指定校を受け、先行的に「地域貢献」に関する研究を行ってきたことも踏まえると、昨年度の74%から5%も数値が向上したことは評価できる。次年度は研究発表会が控えているが、会議や業務内容の精選をさらに図り、できる限り残業時間を減少させていきたい。
9	III 時代の要請にこたえる信頼される学校づくり	児童・生徒の安全の確保	地域や保護者と連携した防災教育の推進	児童が災害に対する危機意識をもつための防災教育の実施	様々な想定避難訓練を実施する。	①毎月1回以上の避難訓練を実施する。 ②保護者への引き渡し訓練を実施する。	(保護者アンケート)学校は、児童が災害に対する危機意識をもたせる取組をしている。 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	A	A	A	児童が真面目に取り組むほど、防災意識が低下する学校がある中、火事や地震の訓練のあり方を毎月見直し、最善なものに修正して取り組む姿勢は、避難訓練のマンネリ化を防ぐものとなっている。	・いつ災害が起きてもおかしくないことを指導してきた。学校内、学校外、家庭内といった場所に関することや災害発生の時間帯も踏まえた指導も訓練時に行ってきた。「もう大丈夫」と思ったときが一番危険であることから、次年度も防災に関する指導を確実に実施していく。
10	III 時代の要請にこたえる信頼される学校づくり	質の高い教育の基盤となる環境の整備	ICT環境の整備	タブレット端末を利用した授業のあり方に関する研修会を実施する。タブレット端末を活用した授業を全教員が実施し、その内容を共有し、活用場面を広げる。	ICT機器活用による教育効果の向上	①タブレット端末を利用した授業を週1回(高学年は、週3回)以上実施する。	(児童アンケート)タブレット端末の利用は、学習に役立った。 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	C	A	B	低学年用の学習アプリやソフトが少ないという実状がある。SNSIに頼らず、図書館を利用した調べ学習も大切である。児童が学校で学んだスキルを家庭で紹介する姿が見られた。	・タブレット端末を利用してから四年が経過した。これまでは、タブレット端末を利用したことに重きを置いてきた。児童は、タブレット端末のよさを体感することができている。 ・今後は、タブレット端末を利用した際の教育的効果に重きを置き、学習内容の理解等のさらなる充実を図るよう、教員による研修会を実施していく。